

1 題材設定の理由

- (1) 活動内容・項目
 - (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
イ よりよい人間関係の形成
- (2) 題材設定の背景及び児童の一般的な実態と現状

小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 特別活動編

＜第2章第2節 特別活動の基本的な性格と教育活動全体における意義＞より引用

第2学年になると、活動の中心となる児童が目立ち始め、他人の立場を認めたり、理解したりしようとする態度や、よりよい学級生活を築こうとする自主性なども次第に高まっていく。学級の中のそれぞれの集団は、仲間としての結び付きもその期間も次第に長くなり、その成員数も増え、小グループでの協働的な活動ができるようになってくる。また、学級全体に目を向けたり、人間関係を少しずつ広げていったりするようになる。さらには、役割を分担して活動したり、きまりの大切さを認識して生活したり遊んだりすることができるようになる。

2 指導目標

授業や「友達と関わる学習」を通して、友達への「ありがとう」の伝え方を練習したり、日常生活の様々な「ありがとう」の場面を見つけたりすることを通して、今後の学校生活でも友達に積極的に「ありがとう」の言葉を伝えることができるようにする。

3 指導法・指導上の留意点

本時では、友達に配付物を渡したり受け取ったりするソーシャルスキルトレーニングである「どうぞ ありがとう」を実践し、「ありがとう」と友達に伝えることの大切さを体験させる。その後、「ありがとう」と言ってほしいときはどんな場面かをビンゴに記入させる。次に、クラス全体で「ありがとうビンゴ」に取り組ませることで、様々な場面で「ありがとう」が伝えられることに気付かせる。その後、具体的な生活の場면을提示し、「ありがとう」を伝える練習を行わせることで、学校生活に生かせるようにしていく。さらに、事後指導の「友達と関わる学習」として、「ありがとうチャレンジ」を設定し、一日の中で「ありがとう」を伝えられた場면을振り返らせ、何かをしてもらったときに友達に感謝の気持ちを伝えることの大切さを理解させる。

4 指導計画

- (1) 事前・事後指導
 - ＜事前指導＞ (なし)
 - ＜本時＞ 学級活動「ありがとうビンゴ」の授業を実施する。
 - ＜事後指導＞ 「友達と関わる学習」を実施する。
- (2) 教科指導等との関連
道徳：内容項目－10 友情・信頼
友達と仲よくし、助け合うこと

5 本時の指導
 (1) 指導過程

本時のねらい		「ありがとうピンゴ」やソーシャルスキルトレーニングを通して、友達への感謝の気持ちの伝え方を理解することができる。		
段階	活動	活動の内容	指導上の留意点	【評価】・ ◇資料
導 入	モデリング・リハーサル 【5】	(1) ソーシャルスキルトレーニング「どうぞ ありがとう」を行う。	○配付物の渡し方と受け取り方の「よくないモデル」と「よいモデル」をモデリングし、よりよい渡し方と受け取り方をペアでリハーサルさせる。	
	課題把握 【5】	(2) リハーサルをした感想を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ありがとう」を伝えるとよい気持ちになる。 ・他にはどんなときに「ありがとう」と言うかな？ (3) 本時のめあてを設定する。 「ありがとう」はどんな時に言えばよいのかな？	○「ありがとう」をきちんと伝えたときの気持ちを全体で共有し、本時のめあてを設定する。	
展 開	リハーサル 「ありがとうピンゴ」 【15】	(4) 「ありがとうピンゴ」を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・分からない問題を教えてもらったとき ・遊びにまぜてもらったとき ・当番の仕事を手伝ってもらったとき ・お願いを聞いてもらったとき ・困っていたときに助けてもらったとき ・ティッシュをもらったとき ・消しゴムを貸してもらったとき 	○ワークシート「ありがとうピンゴ」に、「ありがとう」を言ってほしい場面をペアになった友達と相談させながら記入させる。記入できない児童には、個別に声をかけていく。 ○全体で「ありがとうピンゴ」を行わせる。ペアで一つずつ発表させる。発表者と同じような場面の記入があった時には、ペアの友達と「ありがとう」と言ってハイタッチさせ、ピンゴに○を記入させる。記入した場面が発表した友達と同じ場面か判断できないときには、発表した友達に判断してもらうようにすることを事前に伝える。	◇ワークシート（ありがとうピンゴ） ◇掲示物（ありがとうピンゴ）
	リハーサル 【10】	(5) 様々な場面での「ありがとう」の伝え方を練習する。	○設定された場面でどのように「ありがとう」を伝えればよいかを考えさせ、抽出した児童とモデリングを行う。さらに、ペアで「ありがとう」を伝える練習をさせる。	◇提示物 （なんて言えばいいかな？） 【評価1】 【評価2】
終 末	振り返り 【10】	(6) 本時の活動を振り返る。	○児童一人一人に本時の学習活動を振り返らせるため、振り返りカードへの記入の時間を十分にとった後で、全体での振り返りを行う。	◇振り返りカード

(2) 評価計画

【評価1】	【評価2】	【評価3】
知識・技能 ＜本時＞	思考力・判断力・表現力等 ＜本時＞	学びに向かう力・人間性等 ＜友達と関わる学習＞
ソーシャルスキルトレーニングを通して、相手と適切に関わるための声かけの仕方を練習することができる。	日常生活の様々な場面で、どのように感謝の言葉を伝えればよいかについて考えることができる。	様々な場面で相手に感謝の気持ちを伝える大切さを意識しながら、学校生活に生かそうとしている。

(3) 準備物

- ・ ワークシート（ありがとうピンゴ）
- ・ 掲示物（ありがとうピンゴ）
- ・ 掲示物（なんて言えばいいかな？）
- ・ 振り返りカード

(4) 板書計画

「ありがとう」はどんな時に言えばよいのかな？	提示物 (なんて言えばいいかな？①)
掲示物 (ありがとうピンゴ)	提示物 (なんて言えばいいかな？②)
	提示物 (なんて言えばいいかな？③)

6 事後指導（友達と関わる学習）

(1) ねらい

「ありがとうチャレンジ」に取り組みさせることで、友達に感謝の気持ちを伝えることの大切さを実感させる。

(2) 場所

教室

(3) 時間

毎回5分程度

(4) 学習計画

帰りの会で、その日1日の中で、だれにどんな「ありがとう」を伝えたかを想起させ、「ありがとうチャレンジ」カードに記入させる。1週間程度「あいさつチャレンジ」に取り組みませ、振り返りを行う。 【評価3】

(5) 準備物

- ・「ありがとうチャレンジ」カード